「アンネのバラ」プレート

制作に協力の幸千中へ寄贈

世界バラ会議の提案型事業で

「アンネの日記」で知られるアンネ・フランクにちなみ、愛と平和のシンボルとなっている「アンネのバラ」を通じたまちづくり活動を行う住民団体「『地域ばら花壇』を次の世代へつなぐ会」が5月28日、バラの植栽を紹介するプレートの制作に協力した市立幸千中（同市御幸町）へ、プレートの一部を寄贈した。

同会の小寺康之代表が同校を訪れ、制作に携わった美術部員にプレート八枚を贈った。

プレートは縦一四・七セン、横二一セン。部員八人が、それぞれアンネをイメージして描いたイラストが描かれている。

小寺代表が昨年1月、同町のホロコースト記念館からアンネのバラ苗二本を提供されたことを契機に、平和への思いを広げるためのプレート作成と地域ばら花壇への寄贈を企画。同市が来年の世界バラ会議福山大会開催に向けて募っている「市民・企業提案型事業」に応募し、採択された。

同部の部長で三年の藤原美緒さんが、贈られたプレートを校内のバラ花壇に設置した＝写真。藤原さんは「（プレートでは）アンネの明るい雰囲気を表現しました。アンネのバラのことを、もっと知ってほしい」と話した。

同会はプレートを一〇〇本作り、希望する市内の学校や公共施設に贈っている。小寺代表は「プレートが、バラ会議のコンセプトである『みんなで創る』につながれば」とする。